

国際規格ISOの動向—国際会議に出席して—

須賀 茂雄

ISO/TC79/SC2(軽金属及び同合金)ミラノ国際会議

ISO/TC79(軽金属及び同合金)国際会議は、2010年9月7日～8日にイタリア・ミラノにおいて開催された。私はAHG(アドホックグループ:陽極酸化複合皮膜)とSC2(アルミニウムの陽極酸化皮膜、有機塗膜及び複合皮膜)会議に参加した。会議には、中国・英国・イタリア・ドイツ・日本の5カ国、15名が参加し、次の項目について審議が行われた。

(1) アドホック会議で討議されていた日本からの提案の“複合皮膜の一般仕様”が新規提案として投票にかけられることとなった。他に、アルミニウム上の皮膜の一般通則・塗膜による皮膜及び陽極酸化による皮膜の規格化をそれぞれ進めていくこととした。

(2) 以上の動きに伴い、WG(ワーキンググループ)を次のように再編成することとした。

- 1) WG16 (ISO規格の5年毎の見直し)とAHGは、廃止。
- 2) WG15は名称をAnodic oxidation coatings on aluminiumと改正する。
- 3) 新たにWG17 (Organic coatings and combined coatings on aluminium)、WG18(Terms and definitions)、WG19(Surface treatment for protective and decorative applications)を作ることとした。



ISO/TC79会議風景

ISO/TC61/SC6(プラスチック)バンコック国際会議



左から、松井昭氏(プラ工連)、筆者、高根由充氏(JWTC)

ISO/TC61(プラスチック)国際会議は、2010年9月13日～17日にタイ・バンコックにおいて開催された。私はSC6/WG2(老化、耐薬品性、耐環境性部会の中の光暴露)会議に参加した。

会議には、韓国・ドイツ・南アフリカ・フランス・インド・英国・タイ・アメリカ・スウェーデン・日本の10カ国、20名が参加し、

次の項目について審議が行われた。

(1) ISO 4892-1(実験室暴露試験の通則)の改正FDISの提出が時間までに間に合わずキャンセルされたため、再度新規提案からの審議になった。ASTM規格を本文に入れるのをENが許可しないため、参考文献として記載することとした。

(2) ISO 4892-2(実験室暴露試験—キセノン)

各国からのコメントを審議し、プロジェクトリーダーがそれらを考慮した文書を作成・回覧後、DISとして投票にかけられることとなった。主な改正点は、次の二点である。

1) 一般的によく使用される試験条件を本文に残し、他を附属書に移動する。

2) 水平式試料台の試験機ではBSTが推奨される。

(3) ISO 4892-3(実験室暴露試験—紫外線蛍光灯)

各国からのコメントを審議し、プロジェクトリーダーがそ

れらを考慮した文書を作成・回覧後、DISとして投票にかけられることとなった。主な改正点は、試験条件の表の間違いを正しより分かりやすい表とする、ことである。

(4) ISO 4582 (暴露後の評価) は再確認された。

(5) 韓国から、キセノン光を用い、より高い温度試験の必要性について発表があり、ISO 4892-2 (実験室暴露試験—キセノン) の追補としての新規提案として提出されることになった。

(6) 韓国から、人工芝について発表があり、テクニカルレポートとしての新規提案として提出されることになった。

尚、長年ISO/TC61/SC6に参加し多大な貢献をされ、昨年亡くなられた元米国代表のMr. Warren Ketolaに弔意を示し、会議の冒頭に参加者全員で黙祷した。



バンコク、ルンビニー公園のオオトカゲ
(TC61メンバー (株)INAX今井氏撮影)

ISO/TC156/ WG7 (金属及び合金の腐食) スtockホルム国際会議

ISO/TC156 (金属及び合金の腐食) 国際会議は、10月6日にスウェーデン・ストックホルムにおいて開催された。私はWG7 (腐食促進試験法) 会議に参加した。会議には、スウェーデン・英国・チェコ・日本の4カ国、11名が参加し、次の項目について審議が行われた。

(1) 日本からの新規提案 (絶対湿度一定下でのサイクル試験)

新規提案の投票結果は、回答期限が10月6日であるが、途中経過で賛成国は5カ国以上、中国・カナダ・チェコ・日本・スウェーデンの5カ国からエキスパート登録もあり、承認される方向である。正式に承認された後、コメントを考慮・文書を作成し、次のステージに進める事となった。

(2) ISO/CD 16701 (温湿度制御下での間歇塩水スプレー) VOLVO社で行われている試験法が改正になり、それに伴うISOの改正である。

投票の回答期限が10月6日であり、各国からのコメントを集計・考慮し次のステージに進める事となった。

(3) ISO/DTR 16335 (促進試験法を選定するためのガイドライン)

各国からのコメントを考慮し、プロジェクトリーダーが次回会議までに文書を作成する事となった。

(4) 次回の会議は、2011年5月にストックホルムで開催予定。

ISO/TC156メンバー



(後列)	Mr. William Smith (イギリス)	Mr. Goran Engstrom (スウェーデン議長)	筆者	石川 雄一氏 (早稲田大学)	Mr. Mats Strom (スウェーデンVolvo)
(前列)	藤田 栄氏 (JFEスチール(株))	Ms. Katerina Kreislova (チェコ)	Ms. Dagmar Knotkova (チェコ)	Ms. Adetina Flogard (スウェーデン)	藤井 和美氏 (株)日立製作所

スウェーデンメンバー